

にがり を上手に使って頂くために

水稻使用編

○育 苗 根張り改善・草勢強化。

育苗、活着発根促進用には、定植前1000倍で浸漬。

○成長促進（施用は、状況に応じて使い分けて下さい。過剰施用は危険です。下記注意参照）

1. 成長期、草勢強化

反当り1（生育初期）～1.5ℓを、水口から流し込み、
又は、1,500（生育初期）～1,000倍希釈で葉面散布。

2. 分けつ促進

分けつ期に、1.5～2ℓ/反を水口から流し込む。

- ①流し込みは、上記量を10もしくは20ℓコック付きポリタンクで希釈してから流し込み無と便利です。
- ②コック開度は、メジャーカップで1分当りの滴下量を計って流し込みの予定時間に合わせて決めてください
- ③水口から水が5m程度広がってから、流し込みを始めると均一にうまく広がります。

■過剰施用では、分けつしすぎて、穂が出ない、無効穂のみ等の障害の発生があります。

（兵庫県ユーザー様、1.5ℓを2週間隔施用で、1株が20～25cmになったがほとんど穂が出なかった。）

3. 高温対策 草勢維持・倒伏防止・夏バテ防止。

1,000倍で葉面散布。又は、反当り1～1.5ℓ流し込み。

濃度回数過剰は障害が起こる事が有ります。（散布濃度は1,000倍 施用間隔は3週間以上が安全値です）

○品質収量 出穂前15日頃。1,500倍希釈で葉面散布、又は、2ℓ/10a流し込み。

◎食 味 出穂後15日頃。1,000倍で葉面散布、又は、2ℓ/10a流し込み。☆

■葉色と登熟判定に注意

登熟期葉の色が黄色くならない。

岸和田市ユーザー様例「他の田んぼの葉は黄色くなっているのに「にがり」施用の田だけ、葉が青かったので一瞬判断に迷った。」

* ■薬剤との混用

混用可能ですが、各薬剤ごとの適否は検証出来ていません。自己判断で御使用下さい。原液混合は不可です。

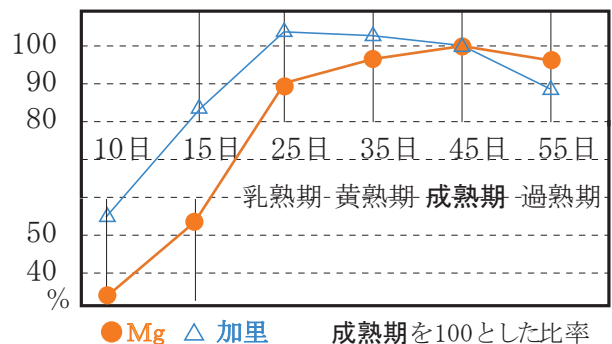
食味と「にがり」の関係

米の食味は、Kカリに対しての、Mg マグネシウムの含有量の比率大きさが、食味の良さと比例するされています。

しかしMgと、Kは拮抗する要素ですから、単にMgを多投してもMgの比率は上がりません。

「にがり」施用は、重要な登熟期のMg補給で、食味向上につなげる事が期待できます。成長期での草勢強化と夏バテ防止と併用すればさらに効果が上がります。

米のマグネシウム分の含有率推移



マグネシウム分は、登熟期全般で吸収されますが乳熟期が重要です。